

1F 事故後 10 年シンポジウムを振り返り今後について考える

Looking back the symposium on "Ten years after 1F accident" and thinking about the future

*理事会

1. 目的

当学会の主催で3月11日、12日に開催される東京電力福島第一原子力発電所（1F）事故から10年シンポジウム「VISION2050 - 事故を振り返り未来を見据える」について、当日の講演やパネル討論の概要を紹介する。そして、それらを踏まえ当学会の今後のあり方や活動方針について議論する

2. 1F 事故後 10 年シンポジウムのプログラム概要

一日目（3月11日）の福島フォーカス編と、二日目（3月12日）の原子力の未来像編の二部構成とした。前者は主として学会外部に向けた発信を意識し、後者は学会員（主として若手）間の議論の喚起と問題意識の高揚を念頭に置いた内容とした。以下、簡単に概要を紹介する。

2-1. 福島フォーカス編

はじめに、1F事故調提言フォローWGが今年度実施した当学会事故調提言への各機関の取り組み状況調査と評価の結果を報告する、続いて、1F廃炉検討委員会及び福島特別プロジェクトから廃炉及び周辺地域の復興・再生支援の取り組み状況と今後の展望について報告する。最後に主として当学会外部の有識者をパネリストとしたパネル討論を実施し、学会の今後のあり方等についての意見や示唆をいただく。

2-3. 原子力の未来像編

部会等から推薦された学会員で組織され、昨年8月から活動を開始した「原子力の未来像検討」WGにおける議論を中間報告する。原子力エネルギーの役割の再定義、気候変動問題への貢献、原子力・放射線領域の学術的な魅力、等の論点を整理する。

3. 本セッションの概要

シンポジウムの講演者であり、各活動組織の代表者である、越塚誠一（事故調提言フォローWG 主査、東大）、宮野廣（廃炉検討委員長、元法政大）、藤田玲子（福島特別PJ代表、元東芝）、村上健太（原子力の未来像検討WG リーダー、長岡技科大）より、シンポジウムでの講演内容のサマリーを紹介する。その後の総合討論では、講演者全員に学会長の中島健（京大）を交え、シンポジウム当日の討論内容などを振り返りつつ、当学会の今後について、そのあり方や活動方針の検討に資するべく意見交換を行う。

*Board of Directors, AESJ